

秋 分 儀 式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 AE98A

第 1 章	解 説
1	司官の配置
2	アストラル神殿の構造
3	身辺の準備
第 2 章	儀 式
	神殿への入場
	ウシャブティ
	マルクト神殿
	イエソド神殿
	ケルビムの召喚
	飛翔する術式
	PWの交換
	宇宙の主への賛歌
	竜の逆周行
	ケルビムの帰還
	マルクト神殿
	地上への帰還

THE OFFICIAL ORGAN
OF

I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。本儀式では、イエツィラー神殿を核として実践する。

儀式内容は、アブハム・アブラフィアの『知性の光』から再構成されたものである。また、《黄金の夜明け団》の「竜の天球」と結びついている。本儀式においては、「飛翔する術式」が用いられており、イエツィラー神殿のなかにイエツィラーのマルクトの風を投影する。儀式に関連する魔術理論については、『黄金の夜明け魔術全書』下巻「北極周辺の四エースに象徴される諸力の渦巻き周天の法則」及びアレイ・カブラン著『瞑想とカバラ』を参照すること。

1 司官の配置

a 司官の指定

本儀式に必要な司官の人数は、次の5人である。

それぞれの太守(ドミノス)は男性形の天使を、貴婦人(ドミナ)は女性形の天使を神の姿形として纏う。それぞれの天使はK R V B I M天使団に属し、五つの母音(発音記号)カメツ、ホレム、ヒレク、ツェレ、シュレクの各1文字を体現する《聖名を冠するケルプ》である。

DOMINUS COLUMNA (DC) 柱の太守 = カメツ(a) = K V R M L (クルマル)

DOMINUS AURORA (DA) 夜明けの太守 = ホレム(o) = C h O R V N (ホロン)

DOMINUS VASTITAS (DV) 砂漠の太守 = ヒレク(i) = R V K A L (ルカル)

DOMINA PONTUS (DP) 深淵の貴婦人 = ツェレ(e) = T z I R A L (ツィラエル)

DOMINA BOREALIS (DB) 極北の貴婦人 = シュレク(u) = S h V H A L (シュハエル)

かれらの携える魔術武器は、対応するケルビムの縮小版である。つまり、DCは、銀白色の球体を先端に備えた棒。DAは、羽毛の扇子。DVは、両手もちの長い金属杖。DPは、雄牛の角杯。DBは、緑のアンク

b ケルビムの召喚

五人の司官は、イエツィラー神殿のなかでケルビムを召喚し、クルマルの呼びかけで「肉の衣を去る」までは、実効上の天使として活動する。ちなみに天使の言う「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

母音の帰属は、次のとおりである。

ケテル	カメツ	a
コクマー	パタハ	a'
ビナー	ツェレ	e
ケセド	セゴル	e'
ゲブラー	セヴァー	e'' (有音時)
ティファレト	ホレム	o
ネツァク	ヒレク	i
ホド	キブツ	u'
イエソド	シュレク	u
マルクト	なし	

「クルマルのテレズマ的イメージ」

全体的に力強い印象のある武装した長身の天使。光翼は背後にたたんであるが、強い輝きを周囲に放射している。その額の中央に大粒のダイヤが紫の飾り紐で止めてあり、無帽の頭頂から豊かな髪がオリーブ色の光沢を放ち、肩まで波打つように流れている。エジプト風の玉石を編み込んだ幅広の首飾りが、力強い首筋をさらに強調している。色つやが良くどうかすると琥珀のように輝く二の腕には、金鎖を編んだ幅広の腕飾りと意匠化された太陽の顔をあしらった太い黄金の腕輪がアクセントを添えている。右手には白金色のオーブを飾った短い棒を握り、左手は腰帯の剣の柄に軽く乗せている。肉体の曲線をそのままなぞった有機的なラインをもつ青銅の胴鎧は、磨きあげられた金属部が光を乱反射する湖

面のように輝いている。翡翠片と銀線で飾られた草葉の形をした銅の直垂が十枚、腰周りを保護している。優美に伸びた両脚には深緑色の革の膝当てが鈍い光沢を見せていた。天使の周囲には脈動する白輝光が、触知できるほど濃密に明滅しており、頭頂部から体側を滑り下り、緑革のサンダルを履いた足もとで大地に吸い込まれていた。

「ホロンのテレズマ的イメージ」

トリックスターめいた敏捷な印象を与える天使。光翼は、風を孕んだように柔らかに広がり、その先端は鋭い形状の羽毛がそよぐように、波にも似たゆらぎを起こしている。かかれは、銅線と銀線を編み込んだ円形の王冠を青みを帯びた黒髪の上に載せている。青黒いスカーフ状の襟飾りに隠れた首筋は男性的で逞しく、目の形をした荒削りな金属の襟留がアクセントを添えている。くすんだ黄金色の肌を包んだ紅い網格子の肌着を通して、力動する天使の生命力が発散している。右手で鴛鴦のような大型鳥の羽毛で作られた扇子を握り、左の手のひらに当っている。かれの重いオリーブ色のローブにくるまれた胴着には不思議な古代の文字が織り込んである。すっきりと突き出た両脚は、意外なほど無骨な暗褐色の革靴で、たなびく雲を踏みしめている。

「ルカルのテレズマ的イメージ」

戦陣から舞い戻ったばかりの荒武者のごとく力強い雰囲気纏う天使。光翼は、緩やかにカーブを描いて広がり、琥珀色の強い髪が黄金のギリシャ風兜の下からはみ出ている。深いオリーブ色のサーコートは鎖帷子の上に羽織り、頑丈な首には角細工の首輪が下げられている。大きく力強い腕は、紫水晶の飾りを施した鉄甲で覆われ、頑丈そうな拳にまで鉄輪を編み込んだ手甲がかけられている。胴周りは意外と細く締まっているが、エメラルドの装飾を施した豪華な胸甲は、優美な曲線の中にも意志の強さを表現している。なめし革の脚甲は、深い青緑に染められ、素早い動きが可能である。

かれの武装は、よく撓う銅製の棍棒で、エメラルドが鉄のスパイクのかわりに埋め込んであった。

「ツィラエルのテレズマ的イメージ」

星飾りのサークレットをモープ色の髪の上に載せた理知的な表情の女性形の天使。光翼は流れるごとく、下方に向かって放射しており、繊細な白磁のようになじに光の粒を鑲めたような緑灰色の宝石の粉が貼り付いている。彼女の声は天の星が震えたように繊細で、音楽的である。細いが意志の強そうな二の腕には、琥珀と黄金の腕飾りが三対鳴っており、光を反射して燃え上がっているかのようだ。深いエメラルド・グリーン色の胴着は、細身だが厚地で性差を隠すように直線的だ。正義の審判を下すために舞い降りた深い青緑のサンダルを履いた両足は、天秤の上で均衡を保つように、宙に浮いている。

彼女は、角杯を携えている。

「シュハエルのテレズマ的イメージ」

支配者の貫禄を備え、女性的魅力に満ち溢れた天使。霊的な炎の王冠を深紅の髪の上にかぶり、光翼は左右に大きく開き、白輝光のなかに黄金の斑紋をちらつかせている。神秘的な文字を凝結させた言葉の首飾りをオリーブ色の襟飾りの上に走らせ、胴回りがエメラルド色の輝きを放つドレスは、袖の部分が燃え上がるような深朱になり、全体に強烈な力加の感覚を放射している。深い青緑のサンダルを履いた両足は、ツィラエルと同様に天秤の上で均衡を保つように、宙に浮いている。

彼女は、右手に緑の宝石で作られたエジプト十字架を携えている。

2 アストラル神殿の構造

a イェツィラー神殿の配置

神殿は、円形で、東、南東、北東及び西に小径の扉が開いている。

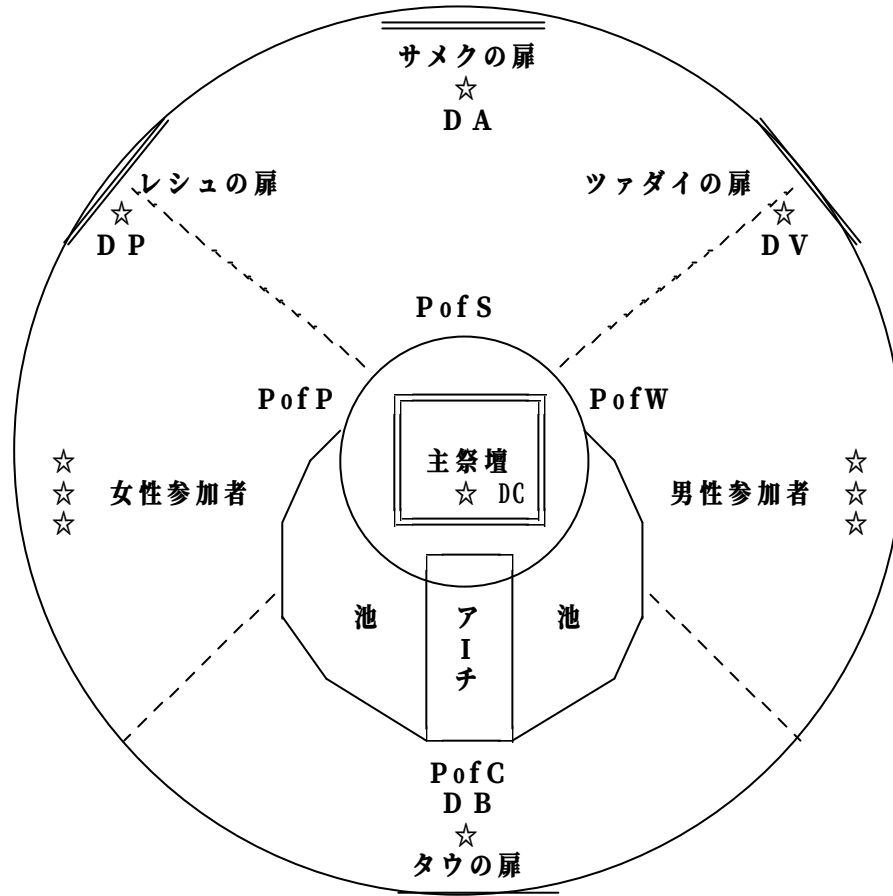
当然のことながら、これらは、サメク（東）、ツァダイ（南東）、レシュ（北西）そして、タウ（西）の小径に対応する扉である。

神殿に西のタウの扉から入ると、すぐ前に三日月形の池、または、浴槽がある。その上は真珠母のアーチ、つまり小型の眼鏡橋がかかっており、まっすぐに神殿の中心に行ける。その中心部には、大きな大理石の立法石が二つ縦に重ねられ祭壇となっている。今回は、この祭壇は直接使用されないが、神殿の要である。

神殿は、四隅点において、四つの領域に分割される。

すなわち、次の「立体天球」の王女の領域に対応するように分割されている。

東部（北東～南東）：剣の王女の領域・・・風に対する親和力
 南部（南東～南西）：棒の王女の領域・・・火に対する親和力
 西部（南西～北西）：杯の王女の領域・・・水に対する親和力
 北部（北西～北東）：盤の王女の領域・・・地に対する親和力



3 身辺の準備

a 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

b シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。シナリオの流れを暗記できなかったら、自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。

c 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

DC、DA、DV、DP、DBの順番で神殿に入る。

順番が来たら、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、入場の順番に司官たちが並ぶ。

先頭に立ち、集まって参加者を振り返るDCが静かに命じる。「ウシャプティを纏うべし。」DCは、率先して「小神像（ウシャプティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話の形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

DCが、マルクト神殿の市松模様の床に最初の一步を踏み入れる。

東に立ち、呼吸と中央の柱で魔法鏡を活性化したのち、神殿の境界までオーラを拡張し、神殿を黄金の光で満たす。これらが完全に成し遂げられたら、神殿の中央に立ち、西を向き合図の鈴を鳴らす。

DCの霊的な鈴の合図で、DAを先頭に廊室から入場を開始する。

最初にDAが入室して、北を通過して、東の壁に行き、東を向いて立つ。続いてDVが入室して、右回りに3/4周し、南壁の中央に東を向いて立つ。DPが続き、1周して西側の壁、外部の通廊の右手に立つ。司官としては最後にDBが入室し、1周と4分の1周り、北の壁に東を向いて立つ。他の参加者は、DBの後を追ひ、女性はそのまま北の壁に、男性はDBが止まったあとさらに半周して南の壁に並ぶ。

DCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

DC：「ヘカス ヘカス エステ ベペロイ I ∴ O ∴ S ∴ ———— ロッジの兄弟姉妹たちよ。
上位の神殿へ続く小径を開かん。」

DCはその場で半回転し、神殿の中央で東を向くと、静かに頭を上に向ける。

天井を向いたまま、思念を上空遥か彼方の別平面に集中し、ホレムの韻を低く小さく、そして徐々に高く、大きく響かせていく。

DC：「O o o o o o o o o o o o」

無限の彼方において、何かが感応し、神殿に向かって巨大な引力が発生する。DCは、ホレム韻を続けながら首を徐々に下げ、それとともに引力は感知できるほど強く神殿の全員の身体を上方に引き寄せた。それはDCと上方の宇宙の一角に存在する磁石が引き合うごとくであった。

DC：「主は、上に向かいて、高さを定めたまえり。」

続いて、DBが東を向いたまま、首を水平に左に動かし、カメツの韻を唱える。

DB：「A a a a a a a a a a」

強い誘因力が左側、つまり神殿の北側の宇宙に発生する。DBは、その引力をたぐり寄せるように、カメツの韻を唱え続け、首を左から中心に、そして右側へ平行移動させる。北方からの引力で、全員の身体が左に引き寄せられた。DBは静かに首を元に戻し韻律の詠唱をやめる。

DB：「主は、北から南に定めたまえり。」

さらに、DVが東を向いたまま、DBとは逆の仕草で右手、つまり神殿の南の宇宙から巨大な引力を召喚した。首を右にスライドさせ、ツェレの韻を唱えながら左へたぐりよせる。

DV：「E e e e e e e e e e」

南北の重力の軸が形成される。カメツとツェレの韻が召喚した引力が均衡した。

DV：「主は、南から北に定めたまえり。」

続いて、DCの後方に位置するDPが、ヒレクの韻を唱える。ゆっくりと顎を沈みこませながら、ヒレクの韻で下方の無限遠の彼方の引力を誘導する。

DP：「I i i i i i i i i i」

ホレムの韻が召喚した上方からの引力とヒレクの韻が召喚した下方からの引力が均衡した。

神殿の西に立つDBが発言する。

DB：「宇宙の東の地平線より、雪の太陽が昇らんとする。
光にまで昇華した風が汝を呼ぶ。

Y o H o V o H o

Y o o H o o V o o H o o

Y o o o . . . H o o o . . . V o o o . . . H o o o . . .

ホレムの韻律を支配する天使ChORVNよ

立ちて、この聖なる場を祝福されたい。

汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

東に立つDAの上に覆い被さるように出現する巨大な天使像が、DAのウシャブティの上に重なった。アケファロスの顔のないオーラに、天使ホロンのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDAの霊的外形が急激に変化する。DAが答える。

DA：「われは、ケルブ・ホロン。

ティファレトの紋章の守護者にして

竜の第3のとぐろを支える天上の風の運び手なり。」

東からDAが発言する。

DA：「不動の大地に潜む力よ、脈動する潜在力、
密かに育む深奥の息吹、伏在する龍こそ汝の名なり

Y u H u V u H u

Y u u H u u V u u H u u

Y u u u . . . H u u u . . . V u u u . . . H u u u . . .

シュレクの韻律を支配する天使ShVHALよ

立ちて、この聖なる場を祝福されたい。

汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

西のタウの扉の前にいるDBは、背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシャブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使シュハエルのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDBの霊的外形が急激に変化する。DBが答える。

DB：「われは、ケルブ・シュハエル。

イエソドの紋章の守護者にして

竜の第4のとぐろを支える天上の地の運び手なり。」

四司官が召喚を終了したとき、神殿の中心からDCが発言する。

DC：「かそけき神殿の奥底から神秘なる技が生まれん。

われは、宇宙の軸を回さん。

Y a H a V a H a

Y a a H a a V a a H a a

Y a a a . . . H a a a . . . V a a a . . . H a a a . . .

カメツの韻律を支配する天使KVRMLよ

立ちて、この聖なる場を祝福されたい。

汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

祭壇の傍らにいるDCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、天使クルマルのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDCの霊的外形が急激に変化する。DCが答える。

DC：「われは、ケルブ・クルマル。

ケテルの紋章の守護者にして

竜を回す軸を支える天上の霊の運び手なり。」

DCが宣言する。

DC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。」

四人の司官は、玉座を離れ祭壇に近づいて、両手を互いに握り祭壇を囲む。

DCがその輪の上に手をかざす。

DC：「生けるエロヒムの霊、永劫にわたり至福を受けんことを

主の声、主の霊、主の言葉、これらが聖霊である。

A a A o A a A a A a A e A a A i A a A u」

DA：「主は霊より風をつくり、風のなかに文字を置かれた。

A o V o A o V a A o V e A o V i A o V u」

DP：「主は、原初の水を風のなかから抜き、文字を定められた。

A e H o A e H a A e H e A e H i A e H u」
D V：「主は、火を水から抜き出し、火によって栄光の玉座を刻まれた。
A i Y o A i Y a A i Y e A i Y i A i Y u」
D B：「主が雪を文字に注がれると地になった。
A u H o A u H a A u H e A u H i A u H u」

D C が宣言する。
D C：「大いなる周行をもって、飛翔する竜の術式を執行せん。」

四司官は東を向き、D V、D P、D A、D Bの順に東のサメクの扉の前に並ぶ。
D Vが右回りの周行を開始する。D Pがそれに続き南に行く。
D Aは、歩き始めるが、その歩みはのろく、神殿の中央に引き寄せられる。D Bが外側を追い越す。D Aは、最後尾となる。
ツァダイの門を通過したD Vの歩みが落ち、内側に引き寄せられる。D P、D B、D Aがその横を通過する。D Vは、最後尾につく。
D Pは、南西点を通過すると歩みが遅く、内側に引き寄せられる。D B、D A、D Vが外側を追い越していく。D Pは、最後尾につく。
D Bは、北西点を通過すると歩みが遅く、内側に引き寄せられる。D A、D V、D Pがその外側を通過する。D Bは、最後尾につく。
D Aは、レシュの門を通過すると歩みが落ち、以下、同じように順序を入れ替えながら、右回りに三周する。

3周目は、各玉座の前で停止した司官は、列の最後尾にはつかず、ひとりずつ人数を減じて元の位置に戻る。

D C：「神秘なる周行は完成し、竜は天球を周回せり。
昼と夜は均衡し、春分は到来せり。」

D Vは、祭壇に南東から近づく。
D Vは、ホルスのサインを行う。D VとD Cは、祭壇の上に身を乗り出し、他者に聞かれぬようパスワードを交換する。
D V：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。
神殿の古きパスワードは・・・なり。」
D VとD Cは、身を離し、D Cがハーポクラテスのサインを行う。D Vは、元の位置に戻る。

次に、D Pが北東から祭壇に近づき、今度はD Cがホルスのサインを行う。両者は身を乗り出して、パスワードを交換する。
D C：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。」
神殿の新しきパスワードは・・・なり。」
身を離し、D Pがハーポクラテスのサインを行う。D Pは、元の位置に戻る。

D C：「パスワードは交換された。」

司官を含めた全員が祭壇を取り囲む。

D C：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、祭壇に注ぎ込まん。
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み人間の輪のなかに祭壇を包み込む。手を放すことなく次を唱える。
D C：「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

D C：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

D C：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」
先ほどとは逆に竜の尾の順序で、D B、D A、D P、D Vの列が西へ向かう。

左回りの周行が始まり、西の四半分でDBが列の後尾に行き、DA、DP、DV、DBの列が南に向かう。

以後、同じように順序を入れ替えながら、3周し、最後の周行で自分の場に戻って止まる。

DC：「神秘なる逆周行は完成した。玉座を解放せん。」

DB：「H o A u H a A u H e A u H i A u H u A u」

DV：「Y o A i Y a A i Y e A i Y i A i Y u A i」

DP：「H o A e H a A e H e A e H i A e H u A e」

DA：「V o A o V a A o V e A o V i A o V u A o」

DC：「A o A a A a A a A e A a A i A a A u A a」

DV：「イエツィラーの天使ケルビムよ。
砂時計を通り、イエツィラーに戻るときが来た。
魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

DC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
ケルブ・クルマルは、肉の衣を去れり。」

DB：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。大地の輝きと喜びに、感謝を捧げん。
主の栄光はあまねく地上を満たし、われらに恵みをもたらしたり。
主よ、地母神たる大地と人の子らに、愛と祝福を与えたまえ。
ケルブ・シュハエルは、肉の衣を去れり。」

DA：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。天の音楽の響く大空に、感謝を捧げん。
主の御言葉は、星々の歌声に彩られ、われらに希望をもたらしたり。
主よ、やさしき風と人の子らに、英知と祝福を与えたまえ。
ケルブ・ホロンは、肉の衣を去れり。」

DP：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。生命の生まれ滅する大海に、感謝を捧げん。
主の御手の指は、すべての被造物に、色鮮やかな輝きをもたらしたり。
主よ、万物の生命の母たる水と人の子らに、多様さと祝福を与えたまえ。
ケルブ・ツィラエルは、肉の衣を去れり。」

DV：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。躍動する炎の力に、感謝を捧げん。
主の聖なる火花は、砂のひとつぶたりと見逃さず、靈魂をもたらしたり。
主よ、久遠の霊の表象たる火と人の子らに、力と祝福を与えたまえ。
ケルブ・ルカルは、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

DC：「人の子らよ。ケルビムは、去れり。地上に帰還せん。」

DAが先頭に立ち、左回りに周行する。参列者も同様に約半周し、西の扉を抜けてイエソド神殿に向かう。DCは主祭壇に1礼して、最後にイエソド神殿を去る。
一同はマルクト神殿に帰還する。

最後に帰還したDCが、月の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描いて小径を閉鎖し、引き続き《ヴェールを閉じる》サインを行う。

DC：「I H S h V HとI H V S h Hの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

DCは祭壇に向き直る。全員が祭壇を向く。
DC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

DAが先頭に逆周行（左回り）を開始する。DV、DP、DB、南の参加者、北の参加者の

順でその後を追ひ、各自が3度周行したら、作業場を出る。最後にD Cが、退出する。
神殿の外庭でウシャプティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。
静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。
普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を採り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I :: O :: S ::
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO

IMPRIMI POTEST: I :: O :: S ::
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXCVIII

秋分儀式 AE98A

Copyrights © All rights reserved I :: O :: S :: 1998
1998年9月20日 I :: O :: S :: 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I :: O :: S ::の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I :: O :: S ::の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。